

平成29年度第2回まちづくり懇談会

1. 日 時：平成29年11月13日（月） 午後1時00分～

2. 場 所：市役所9階 第2応接室

3. 次 第

(1) 会長あいさつ

(2) 出席者自己紹介

(3) 市長挨拶

(4) 懇談

(5) 集合写真

4. テーマ：「道路問題、老人福祉問題について」

【議題】

- ・安全で快適な道路へ、通学路の安全確保
- ・南北地域での格差、老人福祉の取組状況

●団体

本日は、塚田地区連合自治会のまちづくり懇談会を市長にお願いしたところ、お受けいただいてほんとうにありがとうございます。心より御礼を申し上げます。

市長には、塚田の連合自治会の新春懇親会にも何度かおいでいただいて、いろいろお話はさせていただいているところでもありますけれども、改めて塚田に横たわる問題についてお話させていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

○市長

今日はおいでいただきましてありがとうございます。日ごろから、塚田地区連合自治会、香取会長をはじめ、皆様方にはほんとうに活発に活動していただいております。また塚田地区は船橋の中でも一番変貌をしている地区だと感じております。私も塚田地区の会合にお邪魔するだけではなくて、道路を走ったりしていろいろ感じることがあります。皆様方のご意見を今日いただいて、今後に向けて有意義な時間にしたいと思いますし、改めて日ご

ろの皆様のご活動に感謝申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

●団体

それでは、まず道路についてですけれども塚田地区においては狭い道路が多く、行き止まりも多いという問題があります。

これは農業中心の時代から宅地化が進んだことにより、道路がものすごく狭く残ってしまったこともあり、道路問題の解決というのは、近々の課題であると思っています。

加えて、子供たちの通学路の安全確保ですけれども通学路が現在ほとんど整備されていないという状況でございますので、その辺をぜひ改善していきたい、具体的にはA G C開発に伴う対応について、お話し申し上げたいと思います。

A G C跡地開発計画が少しずつ明らかになってきていますけれども、住民の最大の関心事は、開発内容よりも道路問題であります。

元来、この塚田地区は、東武野田線の新船橋と馬込沢間の田園地帯として位置づけられてきました。しかしここ十数年、山手工業地区の工場の相次ぐ撤退や、操業停止による跡地開発、また時限立法である生産緑地保護の問題も含めて、農地の宅地への供給など、今や東京都心のベッドタウンとして、住宅開発が一気に進んでおりまして、塚田のまちは大きく変貌してきております。

塚田駅の西口から諏訪神社に向かう、通称「蛇玉道路」、西船方面や木下街道へ抜ける道としては、狭いながらも塚田地区にとっては非常に重要な基幹道路でありまして、抜本的な解決が期待されているところです。

○市長

塚田地区は、地理的にも非常に便利なエリアということで、どんどん宅地開発が進んでいます。私も、諏訪神社のところに抜ける道を週に何度も通っているのですが、あそこの道を拡幅していくのは、家が隣接しているので非常に難しいと思います。

このことから、対策として一方通行化にして、現在、相互通行のところを、歩行者と自転車と車と分けられるといいんですけれども、一方通行化するにはネットワーク地域が広がり過ぎてしまうんです。すぐ脇にもう一個逆向きの一

方通行の道があると、適度なネットワークができるので、道路部ともいろいろ話をしています。

あと、先ほどのお話になかったのですが、塚田の公民館の前の道がありますよね。あそこも非常に狭くて、子供たちは雨の日とか大変だなと思っていますので、何とか歩道を確保できればなと思います。

通学路の関係とか、これから高齢者の人が増えていくと、当然歩道の確保とかが大事になってきますが、道幅を広げるためには、住んでいる人にどいてもらうという作業が発生することなので、改善できるところは改善しながら、積み重ねていければなと思っています。

車道整備は悩ましいところで、きれいに整備すると車の速度が上がり事故が増えてしまったりするところがあるので、その辺のことも考えながらやっていきたいと思っています。

●団体

確かにおっしゃるとおり、車道整備が過ぎると事故につながるというのは、私もよく知っているところですが、今一番最初にやっていただきたいのは、この道路は危険であるという認識をしてもらうことで、道路面上に絵を描く対策に効果があるのではないかと。

塚田駅西口から諏訪神社までの抜ける道を、私たちは「塚田の銀座通り」と最近は言っていて、この「塚田の銀座通り」を何とかしようよという機運が、行政の中で盛り上がってくることを期待したいと思っています。

○市長

道路路面標示については、今、幾つか、立体的に見える道路サインができ始めているので、工夫しながらやっていきたいと思っています。

●団体

今までない視点で、そういうのを考えていただく、前例がないのではなくて、つくっていくというのが、大事なかなと思います。

次に、通学路の安全確保について話させていただきます。

行田東小学校に行くためには、ルネアキシアムから坂になっている狭い道路通称「川せん通り」を通ります。この道路の幅は大体4メートルで、路面に3

0センチ幅のグリーンベルト表示がありますが、子供たちが通るようになってはいるのですが、30センチですので、子供が一人通るのがやっとです。

朝7時から9時までは通行禁止ですという標識がありますが、住民は入ることが出来ます。また、それを知らずに、この道路に進入してくる車もあるので、この標識があまり目立たないのではないかと思います。

道路を拓げるのは難しいと思うので、先ほど話しましたけれどもアートの目印をつけて、ここは通学路だということをはっきり表示していただくと、車の人にももっとわかりやすくいいのではないかなと思います。

○市長

今、安全を目指し、最善ではやっているところですが、修正するべきところは修正し、これからも進めていきたいと思っています。

●団体

安全確保については東武野田線を高架にすることが、究極ではないかなと思います。国、県、事業者、市といろいろかかわりを持つわけですが、高架にすることによって経済価値も生まれてくるし、そういう意味では、変貌する塚田の一つのシンボルになるような気がします。実施するには事業者とどう折り合っていくかというのも、非常に大変な問題と思いますが、住民にとって東武野田線を越えて北本町に行くというのは、大変なのです。電車や車が往来しているので、非常に焦りながら渡るといふ人や、お年寄りの方では渡らないようにして遠回りしていくといふ人のことも聞いております。非常に危ないところです。

○市長

そうですね。市の都市計画がなかなか追いつかなくて、今のような状況が生まれていますけれども、一步一步やらせていただきたいと思っています。

●団体

自転車の交通安全の件についてちょっとお話ししたいと思います。私は毎朝7時からスクールガードをやっています。

塚田の駅前、船橋側の踏切付近の道路でやっているなかで、信号無視をする自転車が多いのです。特に、高校生と、通勤で船橋側に行く方、若い奥さんの信号無視が多いと感じています。そういった中、塚田小学校へ行く子供が増え

たので、危ないと思うことが、結構あるという状況を知っていただきたいですね。高校への注意もしていただけたらと思います。

また、そこから、「塚田の銀座通り」をダスキンのほうに向かって進んでいくと、途中からグリーンベルトが設置されていますが、交差点から10メートル、15メートルぐらいは何もないんです。信号を渡ってからそのグリーンベルトまで行くまでに、傘を差していますと、狭いので危ないんです。だからといって狭い道路のままグリーンベルトを設置したら、行田方面からの車が通行できなくなってしまうので、どうしたらいいのかなと思っています。

それと、ダスキンの郵便局へ行く道も、グリーンベルトがないのですが、そこを通学で利用する生徒は100人以上いるため、必要を感じています。

○市長

あそこは今、下水道工事が入っていますので、それが終わったら対応する予定になっています。

駅前も状況もわかりました。高校への注意も必要ですね。地元の方からそういった指摘があるので、生徒たちに十分改めて注意を促してくれと指導します。

●団体

私も、6年前からマックスバリュの前で6時50分ぐらいから大体7時半までスクールガードをやっています。ここは二車線の道路を一車線にし、自転車レーンをつくったのですが、朝の時間は、ダンプや工事用の車両が待機待ちで連なっています。そんなことから自転車は、車道でなく歩道を走ることになっています。なので、警察の取り締まりとか自転車レーンを長くするとかの対策が必要なのかなと思うんです。

あとスクールガードのほかに掃除もやっていて気が付いたのですが、歩道側の植え込みが全部枯れています。また、約30リットルのごみが毎日あります。鉄工所があるせいか、大きな鉄の塊が道路に落ちたりもしています。せっかくのいい道路なのでモデル道路として整備とか管理をするのもいいのではないのでしょうか。

では、高齢者問題に移りたいと思います。塚田地区のコミュニティで見ると高齢化率は高くはないんですけれども、部分的に高齢者世帯が増えているところがあります。特に前貝塚町、それから旭町です。塚田地区としては「南北格

差」として認識していますが、南側の商業ゾーンが豊かだという反面、北側はほとんど何もないという状況から、北側の高齢者世帯では買い物難民が急増中であり、まず公共交通の活性化についてお話しします。

現在におきましては、前貝塚イトピア自治会、北公園を始発とする公共交通バスが、週3回、3便が運行されております。利用率も高く、増便要望の声が上がっている状況でございます。さきほども申しましたが、買い物難民地区という状況になっています。そういった地区を中心に、公共交通バスの運行の期待が高まっているということで、買い物に行くにも、公共の施設に行くためにも公共交通があるといいですね。

○市長

確かに不便に感じておられているようですが、船橋市全体で見ると、塚田地区はほかの地区と比べるとものすごく施設が近いんです。例えば、船橋の北部地区からしてしまうと、何でこっちやらないのに塚田やるんだよみたいな感覚が、あると思います。

そういった交通不便地域の基準もありますが、前貝塚地区に少し入っていく高齢者支援協力バスも来年度ぐらいからできれば走らせていければと考えています。

移動手段の問題は切実ですので、何らかの形で制度を壊す、風穴を開けてやるような時期に来ていることは認識していますので検討したいと思います。

●団体

買物ということであれば、事業者とジョイントして移動スーパーとか、いろいろな視点があると思うんですけれども、もういろんな知恵を絞ってやっていただけるとありがたいなという気がします。

足の不便さから、法典の西老人福祉センター、夏見の中央老人福祉センターに行けない人も増えております。これから塚田地区は高齢者が増えますので、将来の生産緑地の解除のときに、新たな老人福祉センターも期待したいと思っています。

最後ですけれども、老人福祉センターについてお話しします。

現在、わが地域では、中央と法典の2カ所あるのですが、法典の西老人福祉センターは、木下街道沿いで、人と人がすれ違えない歩道しかなく、そこま

で行くというのが至難の業です。中央老人福祉センターも交通量の激しいところを通るので行くのが大変です。

今、私はミニデイサービスの部長をしていますが、最近人気が上がって、人数が増えてきています。ただ、ミニデイに来たくても自力で公民館に来られないといった難民の方が相当います。私としては、希望者は全員参加してほしいので、そういう人たちの足となるものを広げてほしいなと思います。

ある地区では、地区でバスを購入して、送り迎えをやっているところも出始めています。財政面の問題もありますけれども、そういうのも一つの手かなとは思っているんです。

話は変わりますが、最近が高齢者には在宅介護を全国的に勧めています。船橋市でも介護を必要とする人におむつ代、お風呂券、マッサージ券、タクシー券等を出すなど、非常にいろいろやってもらっていて非常にありがたいんですけど、健康老人に対しても配っているという気がしていて、ほんとうに必要な人のところにサービスが行くようにしないとサービスのし過ぎで首を絞めるということにもなりかねないと思うので、真剣に考えないといけないと思います。

また、健康な老人が多いのでそういう人たちをいかに活用するかというのが、これからの大きな問題だと思います。その辺も、市のほうで検討していただければと思います。

おそらく将来的には老々介護がメインになっていくと思うんです。在宅医療を勧めていても、家族が見るのがほとんどなので、1人の介護者が出たときには、2人介護者出たという観点が必要だと思います。介護される側だけのことにポイントを置いて見てしまうと、いろいろな問題が発生するリスクが大きくなる。ですから、月に1度でいいから、市で2日間預かるので、家族の方はリフレッシュしてくださいというようなことまでできれば、バラ色です。これは難しいことですが、家族のためにも必要だろうと私は思います。

○市長

老人福祉センターをつくる話は、ほかの地域のバランスを考えるとちょっと難しいですが、確かに西老人福祉センターも中央老人福祉センターも行くのが大変なんですよね。

老人福祉センターにはいろいろな機能があるんですけども、例えば空き家の活用で部屋を改築して、大人数入ってカラオケができるとかというぐらいのものは、やっていくことは可能だと思います。皆さんが言っている老人福祉センターというのはどういうイメージなのでしょう。

●団体

駅周辺で集まって来られる場所になってくると思うんです。そこにカラオケやダーツ、お風呂にフィットネスクラブ、これが揃うのが老人福祉センターです。

今、認知症の方が認知症の方を介護する認々介護というのもあり、そういうふうにならないためにも、認知症予防のためにもカラオケ大会をやりようと考えています。

○市長

カラオケとダーツまでは行きつけないと思うんですけども、そこにお風呂がついてしまうと、施設的には難しいです。これからどういうやり方がいいのかわからないんですけども、エリアの中で大きな空き家があったときに、それを活用して動く可能性はあるかと思います。

あと、福祉のサービスのあり方ですけども、これは非常に難しく、船橋は他市よりはかなり充実していると思います。それで、今なぜ在宅医療と在宅介護にシフトしているかという、特別養護老人ホームとかは、施設をつくるのにもものすごくお金がかかって維持費もかかっている、船橋みたいに土地がないところだとなかなか作るのが難しいです。高齢者の方にアンケートをとると、8割ぐらいは今のところに住みたいという人がほとんどなので、そこで在宅で定期的に見に行き、親子の関係で支えきれない部分を社会的な仕組みでやっていこうというところなんです。

ただ、高齢者の数が増えていくので、どうしても本当に困っている所にサービスを集約する見直しはお願いするようになると思います。

●団体

新船橋駅付近の森のシティについて話しをします。

5年目を迎えまして、特に幼児、それから小中学生が非常に増えているなか、スーパーマーケットに皆さんが集まってくるわけです。そのため、道路の交通渋滞の発生、そこから派生する交通事故、整備不足とかいう問題があります。

具体的には信号機の増設、自転車の専用道路の設置、ガードレールの増設、違法駐車取り締まり、小学校へ行くシャトルバス停の検討が必要かなと思っています。30キロメートルの制限区域もあるといいですね。

それから、防犯カメラです。昨今、刃物を持った者が通り過ぎたというようなこともありまして、被害的には特にはないんですけども、防犯カメラも考えています。

○市長

ガードレールの設置とか信号機の話は、県の公安委員会にお伝えしてあると思うんですけども、市の権限ではないんです。防犯カメラは、船橋は自治会単位で申請してもらっており、運営費の補助は市でやっていくような仕組みにしているので、自治会の中で幾つかポイントを絞ってもらって、設置要望みたいなを出していただければと思います。

●団体

森のシティで懸念しているのが、子供たちが市場小にバスで通っているわけですけども、バスの容量不足になってきて、高学年は市場小まで歩いて行かざるを得ないんじゃないかなという懸念を、地元では今持っています。

あのバスの運行そのものは、管理組合から業者に委託して運行しているので、民の世界で解決しなければいけない話だと思うんですけども、学校へ歩いて行くのはものすごく不安ですよ。

○市長

児童生徒数や校舎のクラス、部屋も予測しながらやっているんで、今のところまだ大丈夫だと思います。バスの容量不足について教育委員会のほうで検討していますので聞いてみます。

●団体

スクールガードに関連してですが、どうも見ていると学校側のほうにあんまり協力精神がないのかな、と思うことがあります。

町会では6月と12月の第3日曜日に、子供を守る会ということで、塚田の駅前と東武ストアの前でチラシ配りをやるんですが、PTAの人たちも学校の人もほとんど出ていないんです。やっぱり地域で我々が子供を支えるのであれば、学校やPTAが中心になってやっていかないと、長続きはしないのかなと思います。

○市長

それは、よくない状況みたいなので、教育長のほうとも話をさせていただきます。

「こども未来会議室」というところで市長になったら何をしたいかというテーマで中学生と話をしたときに、毎年高齢者の人を大事にするまちをつくりたいという提案があったのです。その理由が、スクールガードの方に感謝をしているというのと、自分のおじいちゃん、おばあちゃんにやっぱり元気でいてほしいということだったんですね。中学生になっても、スクールガードの方たちには感謝している、というのが必ず出てきますので、この辺は学校にもしっかり伝えさせてもらいます。

●団体

さきほど空き家の活用の問題が出たんですが、北本町2丁目町会も、現在7軒ぐらい空き家があり、防犯活動のなかで持ち主を調べてコンタクトをとっているのですが、この時期になるとやっぱり放火が心配です。本来は壊して更地にしてもらいたいんですが、何か市のほうでも対策を打てることがあれば、考えていただきたいなと思います。

○市長

空き家の条例があるんですけども、台風で倒れてしまって周りが危険という状況なら、強制執行ができるんです。ただ、大分古いんですけども、まだ台風ぐらいでは倒れないよというところは、財産権の関係で強制執行はできないんです。

願いは続けていくしかないので、担当にも話をして、何らかの形でコンタクトをとるようにします。

●団体

ありがとうございました。では、これで終わりたいと思いますけれども、市長のほうから総括していただけますか。

○市長

ほんとうにいつもありがとうございます。

今、これから各町会自治会の活動がないと、船橋のまちづくりそのものが前進せず支え切れない時期にきています。今回初めてこういった形でやり取りをさせてもらいましたけれども、年に1回でも、こういうやりとりができたらと思います。これからもよろしくお願いします。

— 了 —